

40. 子どもたちの居場所づくり

－小学校の中での遊び場ボランティア－

グループ名 えんがわクラブ
代表者 北村 睦子

① 活動の目的

子どもたちは、今、心からほっとできる居場所を求めています。地域・家庭・学校の中に子ども達の居場所を作るために高齢者の特技を活かすことを目的にしながら活動を続けています。

特に、学校に風穴を開けたい、学校こそ子どもたちにとって魅力的な居場所になってほしいとの思いから、小学校の会議室・和室に子ども達の居場所をつくり、高齢者ならではの得意分野「昔遊びや紙芝居」などを生かして、子どもたちとの交流をはかりました。

学校は友達がいって楽しいけれど、我慢や緊張する場所でもあります。狭い人間関係や空間がいじめや不登校の一因となることもあります。そのような学校の中で、高齢者グループ「えんがわクラブ」が開設する居場所は、その優しさや穏やかさが子ども達の心に響き、子ども達のほっとする場になっています。

この活動で大事にしていることは、子ども達の笑顔を自分たちの喜びとできることです。高齢者にとっても、子ども達の笑顔が元気の素になっています。

地域ぐるみで子育てを応援し、子どもたちを見守っていきたいと考えています。

②活動概要



○年間を通して毎週火・金曜日の小学校昼休みの時間（13時～14時）

地域の高齢者のボランティアが、子どもたちにおはじき、お手玉を教えたり、昔話や地域に伝わる民話などの絵本や紙芝居の読み聞かせをしたりします。こま回しやけんだま、めんこも人気です。



○ 2 2 年 1 0 月
地域イベント「月夜のお話し会」で、
「お話コーナー」を設け、
子どもたちに読み聞かせをしたり、
絵本の紹介をしました。



○23年10月
この「えんがわクラブ」の活動がきっかけとなり、小郡小学校3年生の総合学習の授業によばれ、ゲストティーチャーとして昔遊びを子どもたちに教えました。毎週の昼休みの日常活動で顔見知りの子もたちがたくさんいます。授業ではたっぷりの時

間をとっていただきゆっくりとあそぶことができました。

〔遊びの種類〕

おはじき・たけうま・折り紙・剣玉・羽子板・メンコ
コマ回し・あやとり・お手玉



③活動の成果

小学校の会議室（和室）で、お昼休みの時間に地域の高齢者が子どもたちに昔の遊びを教えながら交流する活動を、長期休暇期間中を除き毎週2～3回行ってきました。また、校区内で開催される地域のイベントの中にも、むかし遊びコーナーや絵本の読み聞かせコーナーを設けるなど、高齢者と子どもたちの交流の場をつくることに積極的に取り組みました。

活動に取り組む地域の高齢者のボランティアの方々は、毎回子どもたちの笑顔に会えることをとても楽しみにし、遊びの内容をもっと充実させようと絵本の選定を話し合ったり、折り紙の作品を飾ってみたり、いろいろと工夫をしながら大変熱心に取り組まれています。

子どもたちも、高齢者のボランティアの温かさや遊びの面白さに惹かれ、毎回多くの子どもたち（特に低学年）が遊びに来ていて、高齢者と子どもたちの温かい交流の場となっていました。

また、「えんがわクラブ」のとき以外にも、町の中で会った時に子どもたちがあいさつしてくるようになり、そのことが生きる張り合いになったという高齢者の声もありました。

地域の中には、自分の力を何かに役立てたいと思っておられる高齢者はかなり多いということが、この活動が続けているとよくわかります。

高齢者の力を役立ててもらおう場を作っていくことで、人と人とのつながりができ、それがまた高齢者にとっての生きる力となっていくので、今後もこの活動はさらに積極的に広げていこうと考えています。

④決算報告書

収 入	大同生命厚生事業団 助成金	80,000円
支 出	むかし遊びの道具	
	和ごま	27,000円 600円×45個=27,000円
	けんだま	24,000円 800円×30個=24,000円
	めんこセット	5,000円 100円×50個=5,000円
	おはじき	5,000円 100円×50個=5,000円
	お手玉	8,000円 200円×40袋=8,000円
	ちらし用インク	3,995円
	ちらし用用紙代	9,000円
	折り紙	1,500円×6箱=9,000円
		1,785円
合 計		83,780円